



各種研修会等への
講師派遣(二)三月

○第三回改良普及員経営部会

・研修会

主 催 石狩支庁 農務課

と き 平成六年二月二十一日

テーマ 農業労働力の問題点と地

域の取り組みについて

—最近の調査事例から—

話題提供者 富田 義昭(当研究所

所・常務理事)

○厚沢部町そ菜協議会・研修会

主 催 厚沢部町花き・そ菜連絡

研究会

と き 平成六年三月五日

テーマ 野菜と地域活動の活路を

求めて

講師 前川原 隆志(青森県下

田町農協・参事)

○野菜栽培研修会

主 催 新篠津村野菜生産連絡協

議会

と き 平成六年三月二十四日

テーマ 野菜の発展条件と課題

講 師 富田 義昭(当研究所・

常務理事)

○富良野市農業講演会

主 催 富良野市農民連盟協議会

と き 平成六年三月二十九日

テーマ 新農政における富良野農

業の課題と展望

講 師 富田 義昭(当研究所・

常務理事)

当研究所会員の

加入状況

平成五年度末現在の会員数は四百六で、前年に対し二十七会員の増となりました。その内訳は次のとおりです。

団体 五十三会員。農協 百四

十七会員。市町村 七十三会員。

個人 百三十三会員。

ひきつづき新規会員の加入を促

進しますので、協力をお願いします。

おしらせ

五月十三日開催の総会で当研究所新役員が、次のとおり選任されました。

理事 長 上田 恒夫 (北海道農業信用基金協会 会長)

副理事 長 阿部 忠男 (北海道農協中央会 副会長)

副理事長 七戸 長生 (酪農学園大学 教授・北海道大学 名誉教授)

研究所長 富田 義昭 (元ホクレン 審議役)

常務理事 塩沢 照俊 (拓殖大学北海道短期大学農経科 教授)

理 事 牛山 敬二 (北海道大学経済学部 教授)

近藤 正忠 (北海道信連 副会長)

田島 源一 (ホクレン 副会長)

森田 芳雄 (北海道共済連 副会長)

武田 弘道 (北海道厚生連 副会長)

竹内 正一 (北海道町村会 農林常任委員長)

向田 孝志 (北海道農業開発公社 理事長)

足羽進三郎 (市民生協コープさっぽろ 会長)

堀 二郎 (農林漁業金融公庫 北海道支店長)

坂本 哲郎 (全農 札幌支所長)

外崎 之啓 (農林中央金庫 札幌支店長)

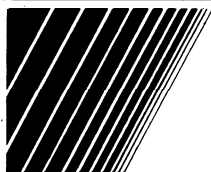
小林 秀敏 (北海道農業共済組合連合会 会長)

坂本 和夫 (渡島大野農協 代表理事組合長)

監 事 坂本 和夫 (渡島大野農協 代表理事組合長)

小林 秀敏 (北海道農業共済組合連合会 会長)

坂本 和夫 (渡島大野農協 代表理事組合長)



DATA FILE

関連事項 / DATA

北海道大学農学部

〒060 札幌市北区北9条西9丁目

☎011(716)2111

帝塚山学院大学

〒589 大阪狭山市今熊2丁目1823番地

☎0723(65)0865

スズキフロリスト

〒104 東京都中央区銀座3-19-9

☎03(3541)8700

株式会社アイムコーポレーション

〒143 東京都大田区東海3丁目6番3号

☎03(5492)4035

株式会社 大田花き

〒143 東京都大田区東海2丁目2番1号

☎03(3799)5000

当麻農業協同組合

〒078-13 上川郡当麻町4条東3丁目4番6号

☎0166(84)2121

北海道立上川農業試験場

〒078-03 上川郡比布町南1線5号

☎0166(85)2200

北海道大学経済学部

〒060 札幌市北区北9条西7丁目

☎011(716)2111

札幌管区气象台

〒060 札幌市中央区北2条西18丁目

☎011(611)6121

全農食品株式会社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-13

☎03(3350)2177

ホクレン農業協同組合連合会

〒060-91 札幌市中央区北4条西1丁目

☎011(231)2111

日本ユニシステム株式会社

〒101 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-1ビル

☎03(3221)0811

編集後記

平成コメ騒動なるマスコミ新語が飛び交い、首相の突然の辞意表明から政局も大騒動の中で、北国にもようやく遅い春が訪れた。札幌の積雪ゼロ記録は四月十三日午後三時。平年より十二日遅れとなった。上川や後志など記録的な大雪に見舞われた地帯は、さらに遅い春を迎え各地の農耕作業は、短期

間の中で急ピッチに進められている。野山はもとより家々の庭先や街のなかにも、春の花が咲き競っている季節に、本号は「花」特集を編んでみた。花き産業の明日へ向けての、幾ばくかの参考になつてほしいと思う。この特集記事を始め、それぞれのテーマをこ



執筆いただいた諸氏には、年度替わりのご多忙な中でのご協力に深く感謝したい。今年の暖候期気象も「解説」欄で詳しく述べられているとおり、予断を許さないようである。とすれば、予防措置を十全に備え、昨年のような被害を回避する心構えが必要では

なからうか。なお、本誌に対する読者諸氏のご意見を得るべく、アンケート票を収集中である、引き続き建設的なご提案をお願いしたい。時代のニーズにもとずいた「会報」を目指したいと思うゆえにである。次号は「農業情報」を特集テーマに、八月発刊の予定である。読者諸氏の期待に応えるべく努めていきたい。(K・T)